

11 月 12 日 年間第 32 主日 (日本の典礼と朗読箇所が異なる)

## 賢くありなさい

マタイによる福音書 25 章 1～13 節

<sup>1</sup>「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出て行く。<sup>2</sup>そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。<sup>3</sup>愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。<sup>4</sup>賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。<sup>5</sup>ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。<sup>6</sup>真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。<sup>7</sup>そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。<sup>8</sup>愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』<sup>9</sup>賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』<sup>10</sup>愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。<sup>11</sup>その後で、ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。<sup>12</sup>しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。<sup>13</sup>だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

他の朗読：知恵 6:12～16 詩編 63:2～8 I テサロニケ 4:13～18

## Lectio … 読む

この箇所は 24、25 章の中のイエスの「終末の教え」の一部です。これは、最後の審判のために人の子がやってくることについて 3 つのたとえ話の最初のもので、その後 2 週にわたって他の 2 つを見ていきます。

イエスは多分このたとえ話を 2 つの段階で理解して欲しいと意図したと思われます。即ちイエスが初めにこの世にやって来たことと、再臨の両方に言及しているのです。

このたとえ話の中で注目すべきことの 1 つは、イエスが賢さと愚かさを対比させるユダヤ人の伝統によって強い描写をしていることです。箴言の作者はこれらの特質を、大きな声で男に呼びかけ、彼らにそれぞれの生き方を申し出る 2 人の女として擬人化しています。このたとえ話の中では、5 人の賢いおとめたちは先のことを考えて花婿のために用意ができています。彼女らは、5 人の愚かなおとめたちと対比されています。彼女らは、その時が来たときに、まだ準備ができていません。

イエスは、常に注意深くイエスの再臨のために準備をしていることの重要性を強調するためこのたとえ話を用いています。前の章では (マタイ 24 章 36～44 節)、私たちに思いがけないことのために準備をしておくように教えています。イエスは必ず戻ってきます。わたしたちはそのことについて確信を持つべきです。しかし、それがいつなのかは誰も知りません。イエス自身さえ知らないのです。父なる神はその正確な時を知っています。そのとき地上に住んでいる人々にとっては、「人の子は思いがけない時に来る」ことでしょう (44 節)。

このたとえ話は、イエスの仲間のユダヤ人に直接話しかけようとする意図があります。

イエスのエルサレムへの凱旋的な入城以来話題の中心は (マタイ 21 章 1～11 節)、イエスがイスラエルに約束されたメシアであるかどうかでした。マタイによる福音書の別のところで (マタイ 9 章 15 節) イエスはご自身を花婿として言い表しており、前のたとえ話 (マタイ 22 章 1～14 節) の中では、息子のために王が準備した婚宴に来ることを拒んだ客たちについて話しています。何世紀もの間、イスラエルの人々はメシアを待ち望んでいました。彼らは招かれた客です。時が来て、そしてメシアが彼らの間に住んでいる時に、ある人々は用意ができており、またある人々は、愚かなおとめたちのよ

うに、用意できていませんでした。

## Meditatio … 黙想する

マタイ 7 章 24 ～ 27 節の中で、イエスは家を建ようとする 2 人の人を対比しています。賢く家を建てる人は岩の上に建て、愚かに家を建てる人は砂の上に建てます。1 人はイエスの教えを聞き、それに従いました。もう 1 人はイエスの教えは聞きましたが、それに従いませんでした。このことは、今日私たちが見ているたとえ話の理解をどのように助けますか。

あなたは、イエスのことを審判者として戻ってくるであろうメシアとして認識しているでしょうか。あなたはイエスに従う者としてあなたの生活を生きていますか。あなたの生き方はあなたが信じると言っていることに合致しているでしょうか。

## Oratio … 祈る

I テサロニケ 4 章 13 ～ 18 節の中でパウロは、イエスの内に私たちが持っている救いの希望を思い出させてくれます。イエスの死と復活を通して、私たちは赦され、神と和解できたことに感謝をささげましょう。聖霊に毎日イエスに従ってあなたが生きるのを助けてくれるように願いましょう。

## Contemplatio … 観想する

箴言 3 章 5 ～ 7 節からの次の節を黙想しましょう。

「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず  
常に主を覚えてあなたの道を歩け。

そうすれば

主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

自分自身を知恵ある者とするな。

主を畏れ、悪を避けよ。」